

# 府職の友 本庁ニュース

発行  
大阪府職労  
内線3746

# 「家族農業の10年」とは？

### 家族農業という農業形態の持続性に国連も注目



6月の地震、7月の豪雨、夏の猛暑、9月の台風と大阪でも自然の猛威に直面しました。被害にあわれた方にあらためてお見舞い申し上げます。また、人員不足にあっても、災害対応の職務を続けている職員の方には、くれぐれも健康に留意して下さい。災害に強い府政にするため、人員確保に向けみんなで声を大きくしましょう。

●府内の農業被害も甚大  
「秋は実りの季節」毎年11月には府内各地で農業祭が開催されますが、今年はトマト等の野菜畑が、冠水で土砂が入り全滅、ビニールハウスの骨組みが折れ曲がる・倒壊する、野菜苗の被害で次の作付けができない、水田や畑の損壊、果樹園では落果・倒木・枝折れなど、大きな被害となりました。農業者の方はこれらがいっ、元の姿に復旧でき

るか見通しがたたく、大きな困難や不安を抱えての秋となりました。一方で、消費者の方には野菜など農産物価格の高騰が続くのはどの不安も出ています。

●「家族農業の10年」都市農業が進む「道」は  
国連では'14年を「国際家族農業年」とし、農業の大規模化が加速する中、世界の食料生産では家族農業が大きな役割を担っていることを示しました。さらに世界中に喚起するため、'17年末の国連総会で'19年からの10年間を「家族農業の10年」としました。

現在、世界の食料の8割が家族農業でまかなわれ、国連は「持続可能な開発目標 (SDGs)」達成に向かう上で、家族農業という農業形態の持続性に注目。各国に家族農業の再評価と政策転換を求めています。しかし安倍政権は「農業の産業化」を標榜し、家族農業を締め出す「農業・農協改革」を推し進めています。大阪の農業は元々1戸当たり耕地面積が小さく大規模化に限界があり、早くか

ら集約的な農業が実践されてきました。また、'15年には都市農業振興基本法が成立し、都市農業の役割が再評価されています。今年の一連の災害の影響は少ないですが、これを機会に府内の農業が継続・発展できる府政を求める声が大き

## 第3回 平成天下の台所

府内はもちろん全国の伝統食や伝統野菜などが集まっています。地酒もたくさんあります。

日時：12月2日(日) 10時〜15時 / 場所：大阪天満宮境内 / 主催：同実行

○農民連大阪産直センターの「季節のお取り寄せ」  
興味のある方は府職労総務農林支部の役員まで

●能勢もち(白餅) 1kg入り / 1,500円 / お届け時期：12月末

●温州みかん(岸和田または和歌山産) 10kg入り

くなっています。今こそ、世界中の飢餓を撲滅し、食を守るためにも、長く受け継がれてきた家族農業が基調となる農業政策への転換を図り、食料自給率(38%)の向上を目指すときです。

## 伝統食まつり開催!

委員会 / 協力：天神橋筋商店連合会



／4,500円  
※送料・税込み価格(沖縄県のみ送料+500円)  
※宅配でなく引取りの場合は大きな値引きがありますのでご相談下さい。

水曜日は  
1-1 職業  
自分の健康と家族のために  
定時に帰りました!